

シンポジウム 浅間山荘から四十年

当事者が語る連合赤軍

主 催：連合赤軍事件の全体像を残す会
2012年5月13日（日）午後1時30分～6時
@目黒区民センター

司 会：金 廣志 椎野礼仁
当事者：植垣康博 青砥幹夫 雪野建作 前沢虎義
(第2部から4部まで連続出演)

第1部 映像でふりかえる

pm1:30-1:50

当時の資料映像で構成 (制作：馬込伸吾)

第2部 当事者世代が語る

pm 1:50-3:10

●ゲストパネリスト

塩見孝也、三上治、鈴木邦男

第3部 連合赤軍事件が残したもの

pm 3:20-4:40

●ゲストパネリスト

森達也、田原牧、大津卓滋

第4部 若い世代にとっての連合赤軍

pm 4:50-6:10

●ゲストパネリスト

雨宮処凛、山本直樹、ウダタカキ、小林哲夫、赤岩友香

パネリストのプロフィール

司 会

金 廣志（塾講師） 1951年、大阪府生まれ。都立北園高校で高校生運動に参加し、1970年、赤軍派に加盟。71年に全国指名手配されるも15年間逃亡し、時効を完成させた。85年より塾講師。中学受験のカリスマ講師として著名。父は韓国の済州島四・三峰起に参加。●著書に『自慢させてくれ!』源草社、『落ちたって、いいじゃん! 逆転発想にこそ難関中学合格のカギがある』角川書店、他。

椎野礼仁（編集者） 1949年、新潟県直江津市生まれ。慶応大学文学部で社会学同（社会主義学生同盟）の活動家。●塩見孝也『監獄記』（オークラ出版）、雨宮処凜『雨宮処凜のオールにひとニッポン』（祥伝社新書）、鈴木邦男『遺魂—三島由紀夫と野村秀介の軌跡』等の編集。著書に『連合赤軍事件を読む年表』『パンタとレイニンの反戦放浪記』（ともに彩流社）。

第二部 当事者世代が語る

塩見孝也（元赤軍派議長） 1941年、広島県尾道市生まれ。京大文学部時代に赤軍派を結成、議長となる。70年に爆発物取締法、よど号事件の共謀共同正犯、破防法等で逮捕起訴され、懲役18年の判決。20年の獄中生活を経て、89年出所後は、「ぱとり・自主日本の会」を結成したり、九条改憲阻止の会に関わるなど。「経産省前テントひろば」にも参加。●著書 『赤軍派始末記—元議長が語る40年』彩流社、『いま語っておくべきこと—対談 革命的左翼運動の総括 現代資本主義論と社会主義論』新泉社など多数。

三上 治（元叛旗派指導者） 1941年、三重県四日市市生まれ。中央大学法学部時代に60年安保を闘う。70年安保闘争のときは、神津陽と共にブントから叛旗派を分派。75年に叛旗派を退き執筆活動、講演活動などに専念。校正の会社を立ち上げ社長を務めたことも。「経産省前テントひろば」の中心メンバー。●著書 『憲法の核心は権力の問題である—九条改憲阻止に向けて』御茶の水書房、『1960年代論』批評社ほか。

鈴木邦男（一水会顧問） 1943年、福島県郡山市生まれ。生長の家の活動を経て、早稲田大学政経学部時代に生長の家学生会全国総連合、民族派学生組織「全国学生自治体連絡協議会」（全国学協）の初代委員長。三島事件で学生時代にオルグした森田必勝の自決に衝撃を受け、一水会を結成。近年はアナーキストを自称。河合塾講師や文化放送のコメンテータも務める。●著書 『竹中労』河出ブックス、『失敗の愛国心』（よりみちパン!セ シリーズ）、『新・言論の覚悟』創出版、『愛国者は信用できるか』講談社現代新書など。

第3部 連合赤軍事件が残したもの

森 達也（作家、映像作家） 1956年、広島県呉市生まれ。立教大学法学部卒業後、自主映画制作、テレビ番組制作会社などを経てフリーに。オウム真理教を内部から記録した

「A」(98年)、「A2」(2001年)が高い評価を得る。旺盛な作家活動でも知られ、ジャンルも多彩。昨年は『A3』(集英社インターナショナル)で講談社ノンフィクション賞を受賞。今年には映画「311」を綿井健陽、松林要樹、安岡卓治と共同監督。●著書 『死刑』(朝日出版社)、『下山事件』新潮社、『世界が完全に思考停止する前に』角川書店など。

田原 牧(東京新聞) 1962年生まれ。麻布高校時代に高校生運動に参加。明治大学政経学部に入學。ジャーナリストとして湾岸戦争、ルワンダ内戦などを取材。95年にカイロ・アメリカン大学留学。87年、中日新聞入社。特報部デスク。●著書 『中東民衆革命の真実』集英社新書、『ほっとけよ。—自己決定が世界を変える』ユビキタ・スタジオ、『ネオコンとは何か—アメリカ新保守主義派の野望』世界書院など多数。

大津卓滋(弁護士) 1949年、福岡県飯塚市生まれ。横浜国立大学時代に学生運動に参加。弁護士として、連合赤軍事件で植垣康博の弁護人、よど号ハイジャック事件関連で柴田康弘、田中義三の弁護を担当した。

第4部 若い世代にとっての連合赤軍

雨宮処凛(作家) 1975年、北海道滝川市生まれ。いじめ、リストカット、バンギャ等の生きづらい体験を経て右翼団体に参加。かたわらパンクロックのバンドでボーカルをつとめ、ミニスカ右翼の異名をとる。新左翼から一水会に転向した見沢知廉(後に作家)に会い文筆活動に。北朝鮮やフセイン政権下のイラクへも数回渡航。プレカリアート問題、高円寺素人の乱、反原発など社会問題にも関与。社会への違和の表現としてゴスロリのファッションを愛用する。週刊金曜日の編集委員、ビッグイシューの相談役も務める。●著書 『「生きる」ために反撃するぞ! 労働&生存で困った時のバイブル』筑摩書房、『排除の空気に唾を吐け』講談社現代新書、『なにもない旅なにもしない旅』知恵の森文庫ほか。

山本直樹(漫画家) 1960年、北海道福島町生まれ。早稲田大学教育学部在学中に小池一夫の主催する「劇画村塾」でマンガ修行。エロマンガ家としてデビュー。過激な描写と大胆なコマ割り、豊かなストーリーテリングが衝撃を与える。1991年、『Blue』(光文社)が東京都条例で有害コミック初指定を受けるが、2010年には『レッド』(講談社)で第14回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。同作品は、連合赤軍事件を克明に追うもの。講談社のイブニング誌で隔号連載して6年たつが、まだ山の中。●著書 『ビリーバーズ』復刊ドットコム、『ありがとう』小学館、『堀田』太田出版、『あさって Dance』弓立社など。

ウダタカキ(俳優) 1978年、東京生まれ。明治学院大学卒業後、アップスアカデミーにて奈良橋陽子に師事。05年から小劇場の舞台に立つ。映画、テレビにも進出。08年、「実録・連合赤軍 あさま山荘への道程」(若松孝二監督)に吉野雅邦役で出演。これに先立って、獄中の吉野に手紙を送り面会を求めたが、「役の上でもう会っているよ」と返事がきた。

小林哲夫(教育ジャーナリスト) 1960年、神奈川県生まれ。95年より、『大学ランキン

グ』（朝日新聞出版）の編集に携わる。高校時代に学生運動に関わった経験が、70年当時の高校生運動の精緻な記録『高校紛争』（中公新書）に結実。現在、新左翼テーマの著作を取材中。●著書 『飛び入学』日本経済新聞社、『理系就職・転職白書』丸善、『ニッポンの大学』講談社現代新書ほか。

赤岩友香（週刊金曜日編集部） 1981年、東京生まれ。立教大学社会学部卒業後、NTTコムウェアを経て週刊金曜日に。同誌の今年2月17日号では、「あさま山荘事件から40年 “みんな”で行なう革命は失敗する」を担当。当シンポジウムパネラーの植垣康博、鈴木邦男さん、金廣志を仕切った。

連合赤軍当事者

植垣康博（スナックバロン経営） 1949年、静岡県金谷町生まれ。弘前大学理学部のとき、民青シンパを経て赤軍派の活動に。連合赤軍としては、M作戦の成功などで実務家として頭角を現す。72年、雪の妙義山中を脱出するも、軽井沢駅で青砥幹夫ら4人と逮捕され、27年間の獄中生活を送る。

青砥幹夫（会社員） 1949年、福島県白河市生まれ。弘前大学医学部のとき、赤軍派に参加。連合赤軍では、山での総括を体験。連赤メンバー9人で妙義山中を逃れ、様子を見にいった軽井沢駅で逮捕。23年を獄中に過ごす。今まで表だった席には出なかったが、今回、当シンポジウムに参加。

雪野建作（IT系会社役員） 1947年、東京生まれ。横浜国立大学工学部で革命左派に参加。名古屋の組織化等を経て、1971年、栃木県真岡市の銃砲店を襲い猟銃や銃砲を強奪。7か月後に逮捕。そのため、山の総括に関わることはなかった。10年の獄中生活の後、環境情報誌の出版などを経て現職。

前澤虎義（塗装会社現場チーフ） 1947年、東京生まれ。蔵前工業高校を経て、大田区の三国工業で坂口弘に誘われ、革命左派に参加。山の中の総括は、まったく意味がわからなかった。あさま山荘の銃撃戦前に逃亡したが、1か月後に警察に出頭。15年の実刑判決。

(共産主義者同盟赤軍派)

- 60. 7-9. 共産主義者同盟、安保総括を巡り三分解、解体へ
- 63. 9. 共産同・社学同 (ML派) 結成
- 64. 3. 21 共産同 (マル戦派) 結成
- 65. 3-7. 社学同統一へ
- 66.
- 9. 25 共産主義者同盟、再建 (第二次ブント)
- 67.
- 68. 3. 29 共産同第七回大会、マル戦派が分裂
- 8. 1-3 国際反戦集会、「八・三論文」世界党一世界赤軍一世界プロ統一戦線を打ち出す
- 10. 21 国際反戦デー、共産同は中権闘争として防衛庁へ
- 69. 4. 28 沖縄闘争を共産主義突撃隊 (RG) で闘う中「赤軍」派フラク形成
- 7. 6 明大和泉事件、赤軍派フラク、共産同中央を襲撃
破防法で手配の仏議長を重傷で逮捕させてしまう
- 8. 22 共産同第9回大会で赤軍派除名
- 28 共産同赤軍派結成総会 (城ヶ島 YH)
- 9. 4 赤軍派大政治集会 (葛飾公会堂)
- 5 全国全共闘結成大会に登場、共産同連合派と衝突
- 20-22 京都戦争一大阪戦争 (阿倍野署交番襲撃)
- 30 東京戦争 (本富士署襲撃)
- 10. 21 新宿署、中野坂上パトカー襲撃 (ピース缶爆弾)
- 11. 5 大菩薩で武装闘争訓練中を八木健彦等 53 名逮捕
前段階武装蜂起 (首相官邸襲撃) 挫折
- 12. 10-11 月決戦、11. 5 の敗北を総括し、国際根拠地論を提唱
 - ・ この頃離脱していた森、呼び戻される
- 70. 1-3. 各地で集会等再建活動を展開 (いわゆる長征)
- 3. 15 塩見孝也議長逮捕
- 31-4. 3 よど号ハイジャック
 - ・ この頃 PBM 作戦挫折、中枢メンバーの連続逮捕

(日本共産党革命左派)

- 64 年秋頃より河北三男、社学同 (ML派) から分派を準備
- 4. マル戦派・川島豪の参加を得て警鐘委員会を結成
- 6. 警鐘委員会を発展的解消して解放工作委員会結成
マルクス・レーニン主義、毛沢東主義を掲げる
- 3. 日本共産党造反部分と日本共産党 (左派) 神奈川県委員会結成、機関紙「人民の星」創刊
- 4. 12_13 日本共産党左派より分裂、日本共産党 (革命左派) 神奈川県委員会結成
- 6. 20 「解放の旗」全国政治新聞の共同編集呼び掛け
- 30 反米愛国行動隊を結成
- 7. 初 4 大工業地帯展開へ河北大阪に、新井功名古屋に
中 行動隊訓練で、川島「『登山の手引』は重要」発言
- 14 京浜安保共闘 (準) を結成
- 9. 3 愛知訪米阻止決起集会、米・ソ両大使館襲撃
- 4 羽田空港突入闘争
- 10. 21 米軍横田基地襲撃、米軍機炎上
- 31 岐阜でダイナマイトを盗む
- 11. 5 米軍厚木基地へダイナマイト、以降米軍基地等に「政治ゲリラ」闘争
- 12. 8 川島豪議長逮捕
- 22 名古屋駅でダイナマイト発見、新井功逮捕
- 30-31 河北離脱
- 2. 22 成田でボーリング機焼き打ち
- 3. 末 川島偽装転向
- 26 米軍横田基地に爆弾攻撃、以降立川・大和田等へ
- 5. 川島、獄中から身柄の奪還を指示 奪還計画へ

(社会情勢、他)

- 11. 22 ケネディ米大統領暗殺される
- 10. 東京オリンピック .16 中国核実験成功
- 2. 7 アメリカ、北ベトナム爆撃開始
- 5. 28 中国文化大革命始まる
- 12. 17-19 全学連 (三派系) 再建大会
- 6. 5-11 第三次中東戦争
- 10. 8 第一次羽田闘争、山崎博昭君虐殺
- 1. 29 東大医学部、無期限ストに突入
- 5. 3 フランス 5 月革命
- 8. 20 チェコにワルシャワ条約軍侵攻
- 9. 30 日大、両国講堂で大衆団交、2 万数千人結集
- 10. 21 国際反戦デー、新宿で騒乱罪適用される
- 1. 18-19 東大安田講堂攻防戦、神田解放区闘争
- 3. 2 中国・ソ連、国境で軍事衝突
- 6. 8-9 アスパック粉砕闘争
- 6. 米軍「ベトナム化」方針、ベトナム撤退開始
- 7. 大学闘争、全国 139 大学に
- 20 アポロ 11 号月面着陸
- 8. 3 大学運営臨時措置法成立、以降
全国の大学個別に封鎖解除される
- 9. 1 リビア革命
- 5 全国全共闘連合結成大会 (日比谷野音)
- 18 芝浦工大、内ゲバで滝沢紀昭死亡
- 21 国際反戦デー、1500 名逮捕
- 11. 16-17 佐藤訪米阻止 11 月決戦、2000 名逮捕
- 22 日米共同声明「極東三条項」「72 沖縄返還」
- 3. 14 大阪万国博覧会開幕
- 6. ブントから叛旗派・情況派分裂
- 7. 7 華青闘告発 (差別問題が闘争課題に)

- 夏-秋 建軍闘争として、度胸試しの辻強盗、ひったくり
10. 秋期前段階武装蜂起路線を撤回、ゲリラ路線へ
12. ・堂山離脱、森単独指導に
- 26 柴野君虐殺弾劾抗議追悼集会（日比谷野音）、終了後野音前で赤軍派・革左初の共同集会
- 31 赤軍派・革命左派初会合（森・坂東と永田・坂口・寺岡）
71. 1. 25 蜂起戦争一武装闘争勝利政治集会（千代田公会堂）、革命戦線・京浜安保共闘共催
2. 22 M作戦（千葉辰巳台郵便局）、以降連続して
3. この間、ゲリラ隊に分散化、またM作戦の事後逮捕により、以降大半の部隊が壊滅
4. 28 首都圏総決起集会（清水谷公園）、日本革命戦線・京浜安保・日本反帝戦線共催
- 29 反彈圧集会（板橋区民会館）、赤軍派・革命左派・蜂起派共催、赤色救援会の復権を提起
- 5-6. 大阪部隊壊滅一6月殲滅戦中止
- 17 明治公園機動隊殲滅戦（鉄パイプ爆弾）
- 19 革命戦争勝利人民集会（大阪桜之宮公会堂）、革命戦線・京浜安保共闘共催
- 24 銃を使用してのM作戦（横浜銀行妙蓮寺支店）
7. 6 持原問題頭在化一「処刑」も検討
7. 13-14 小袖第2ベースにおいて永田、坂口、寺岡と森とで会議、「統一赤軍」結成を確認、結成日は15日に
- 23 M作戦（松江相銀米子支店）、2. 17 の銃を使用
8. 6 被爆26周年広島反戦集会（平和公園）で統一赤軍結成を宣言する機関誌「銃火」を配布
- 8-9. 福島で交番襲撃・殲滅戦準備
9. 14 「連合赤軍」結成集会（四谷公会堂）革命戦線、京浜安保共闘共催
11. 11-13 赤軍派新倉ベース設置
12. 3 革命左派、新倉ベース着、-7 合同軍事訓練。遠山批判始まる
- 16-7 森、坂東、指導部会議を持つために榛名ベースへ
- 21 榛名ベースで森、永田「我々になった」（新党結成）ことを確認
- 31 尾崎充男「総括死」、以降2. 12迄に12人死亡
72. 2. 17 森恒夫・永田洋子、妙義ベース近くで逮捕
- 19 青砥幹男・植垣康博ら4人軽井沢駅で逮捕
2. 19-28 浅間山荘事件、内田・高見警察官死亡、坂口・坂東ら5人逮捕
8. 人民解放遊撃隊（政治ゲリラ闘争部隊）結成
10. この頃、永田、革左の最高責任者に
11. 23 党会議、ゲリラ闘争の開始を確認（於土浦）。川島奪還計画一護送途中を襲撃で一銃の奪取へ
12. 18 上赤塚交番襲撃銃奪取闘争。柴野春彦(24)虐殺、
1. Kさんをスパイと認定「処刑」決定するも、中止
2. 17 真岡銃奪取闘争、新潟を経て札幌へ逃避行、
5. 下 亡命の準備できるまで、当面山を拠点に
6. 6 鍾乳洞で射撃訓練、向山離脱
- 9-10 拡大党会議、「銃を軸とした建軍武装闘争の強化」「鉄の非法法党の建設」を打ち出す
- 27-7. 5 塩山ベース設定、移動
7. 9 交番調査中、磐田駅で早岐離脱
- 24-27 丹沢ベース設置、新潟・福島方面の交番調査
8. 4 早岐やす子「処刑」
- 10 向山茂徳「処刑」
- 下 遊撃戦のための交番調査再開、会津若松など
- 10-11. 井川ベースを経て榛名ベース設置、移動
8. 3-4 海老原君リンチ「殺人」事件
10. 24 チリ、アジェンデ大統領当選
- 25 三島由紀夫事件、市ヶ谷駐屯地で割腹自殺
12. 18 共産同4派に分裂、ブンド内内ゲバ激化
1. 30 米軍、ラオスに侵攻
2. 22-3. 25 三里塚第一次強制代執行
3. 21 東京都美濃部知事当選
- 17 沖縄返還協定調印
7. 9 米大統領補佐官キッシンジャー、周恩来会談
- 15 ニクソン訪中決定を発表
8. 7 警視総監公舎に爆弾
8. 16 ニクソン・ショック（第一次ドル・ショック）
8. 22 朝霞自衛隊員刺殺事件
9. 16 三里塚第二次強制代執行、警察官3人死亡
- 9-11. 共産同（RG）、連続交番爆破
12. 4 革マル派、関西大で中核派を襲撃、辻・正田君死亡
12. 18 土田邸爆弾事件
12. 24 新宿でツリー爆弾爆発
2. 3 札幌オリンピック開幕
2. 21 米ニクソン大統領中国訪問

★印→高橋禮『語られざる連合赤軍』参考文献
 ◆印→スタインホフ『死へのイデオロギー』参考文献

連合赤軍関係文献リスト

1-1 当事者【単行本】		1～9号／発行継続中	状況出版・	2004-				
連合赤軍の全体像を残す会	証言 連合赤軍		皓星社					
植垣康博	兵士たちの連合赤軍	一審判決後に書かれた、幼少期・青春時代から全共闘への参加、赤軍派への加盟、M作戦、山岳ベース事件を経て軽井沢駅で逮捕されるまでの一兵士としての回想記。	彩流社	1984	新装版	2001		
植垣康博	連合赤軍27年目の証言	出所後のとまどいが語られる序文、その時期に受けた3本のインタビュー、甲府刑務所時代の獄中生活を描いた手紙を収録。	彩流社	2001				
坂口弘	あさま山荘1972 上、下	控訴審判決直後から最高裁判決直後までの6年5ヶ月の間に書かれた、生い立ちから一連の事件に関する証言。「続」は郵便物紛失事故により、書き直しをおこない、確定後2年を経て出版。	彩流社	1993				
坂口弘	続 あさま山荘1972		彩流社	1995				
坂口弘<坂口菊枝さんを支える会編>	坂口弘 歌稿	1986年の控訴審結審後から始めた歌作と、1989年から1993年に死刑判決が確定し外部交通権の剥奪による投稿禁止までの約4年間に朝日歌壇に投稿した短歌を収録した第1歌集。	朝日新聞社	1993				
坂口弘	歌集 常しへの道	確定死刑囚として過ごした1993-2001年にかけての短歌総計2865首のなかから593首を選び、2002年から5年をかけて脱稿した第2歌集。	角川書店	2007				
永田洋子	十六の墓標 上、下	一審判決前後に書かれ、世の中に発信する関係当事者の最初の手記となった書。自らの生い立ちから同志殺害、獄中生活まで。	彩流社	1982				
永田洋子	氷解一女の自立を求めて	一審後『十六の墓標』を書き上げたあと、事実確認よりも内面的な部分を重視して死刑判決、性と結婚、政治活動、山岳ベース事件などについて記した書。	講談社	1983				
永田洋子	私 生きてます	控訴審中に書かれた、自らの闘病生活、手術、入院生活、闘病の中での裁判、瀬戸内寂聴氏らとの交流についての書。	彩流社	1986				
永田洋子・瀬戸内寂聴	愛と命の淵に—瀬戸内寂聴・永田洋子往復書簡—	1982-86年(一審判決から控訴審判決)までの瀬戸内寂聴氏との往復書簡。付録:連合赤軍事件統一公判組一審判決理由要旨・獄中食・病状書・瀬戸内寂聴公判証言・最高裁上告棄却判決書	福武書店	1986	福武文庫	1993		
永田洋子	続 十六の墓標	控訴審判決後から最高裁への上告後に書かれた、逮捕後の取調べ、長期にわたる拘置所生活、控訴審判決、総括論争、闘病生活についての書。	彩流社	1990				
永田洋子	獄中からの手紙	死刑確定直前までに書かれた、『永田洋子さんへの手紙』への返信、高橋和巳『わが解体』について、獄中医療と尿療法、庄司宏弁護士との交流について、及び死刑判決確定後の病状日記。	彩流社	1993				
大槻節子	優しさをください—23歳の死 ※新装版 優しさをください—連合赤軍女性兵士の日記	非合法活動に入る以前の1968-71年にかけての遺された手記。個人的な日記であり、当時の彼女の感性と意識がそのままに綴られている。	彩流社	1986	新装版	1998		
加藤倫教	連合赤軍 少年A	事件後30年を経て、生い立ちからあさま山荘まで、服役中と社会復帰のこと、環境保護運動に取り組む現在までが描かれた自伝。	新潮社	2003				
板東国男	永田洋子さんへの手紙—「十六の墓標」を読む	1984年アラブで前後任務の合間をぬいつつ、『十六の墓標』への返信という形で、京大闘争から赤軍派への加盟、連合赤軍事件について、アラブで学んだこと、坂口・植垣両人への伝言などが記された書。	彩流社	1984				
森恒夫<高沢皓司編>	銃撃戦と肅清—森恒夫自己批判書全文(資料連合赤軍問題1)	1972年4月13日から5月2日にかけて書かれた400字詰め原稿用紙換算で約600枚にわたる『自己批判書』(「山岳ベースでの事実の再現」「我々の誤り」と、6月から7月において書かれた角田儀平弁護士宛の手紙。	新泉社	1984				
森恒夫	遺稿 森恒夫	1972年12月25日から1973年1月1日までの一週間のうちに書かれた、板東国男・坂口弘・塩見孝也・松田久宛への5通の書簡。森恒夫が読むことはなかった1973年1月1日付の坂口弘による森恒夫宛の返信を含む。	査証編集委員会	1973				
1-2 当事者【単行本以外】								
情況	1973年5月号 連合赤軍の軌跡 獄中書簡集	情況1973年5月特大号、当事者・関係者の獄中書簡を中心に全面連合赤軍特集。	情況出版	1973				
情況編集委員会	連合赤軍の軌跡 獄中書簡集	1974.3.15/情況1973年5月号の単行本化	情況出版	1974				
信濃太郎編	新左翼運動獄中書簡集	長野で救援活動をしていた信濃太郎氏宛の当事者・関係者の獄中書簡を数多く所収。	新泉社	1994				
朝日ジャーナル	坂口弘・永田洋子往復書簡	掲載号不明	朝日新聞社	1986?				

「実録・連合赤軍」編集委員会 +掛川正幸	若松孝二 実録・連合赤軍 あさま山荘への道程	当事者、関係者多数の寄稿をまとめ、映画公開と同時に出版された。資料として 第一級の書。	朝日新聞 社	2008				
状況	2008年6月号 緊急特集:『実録・連合赤軍』をめぐって	当事者・関係者の寄稿・対談・インタビュー・資料等多数掲載。	状況出版	2008				
坂口弘	控訴審供述調書		自費出版	1985				
日本死刑囚会議・麦の会編著	死刑囚からあなたへ	坂口弘「判決・教訓・死刑廃止活動」所収	インパクト 出版会	1987				
植垣康博・板東国男・永田洋子・塩見孝也	連合赤軍総括に向けて	その1～その4	共産主義者同盟赤軍派(プロ革)	1973- 1975				
植垣康博・永田洋子・前之園紀男・嘉村祐一・瀬戸内寂聴	連合赤軍統一公判控訴審 公判証言集		植垣康博・ 今村幸一	1986				
植垣康博・板東国男・永田洋子	統一公判控訴審 連合赤軍総括資料集 控訴趣意書 供述書(板東国男)		連赤問題を考える会	1992				
植垣康博	連合赤軍総括・二 連赤問題の全面的総括のために—塩見孝也氏の「野合」論による連赤歪曲に反対する!—		連赤問題を考える会	1994				
植垣康博	アジア社会主義と連合赤軍		自費出版	2002				
植垣康博・他	連合赤軍公判ニュース 雪嶺	1号～?	植垣康博・ 今村幸一	1985? -?				
植垣康博・他	連合赤軍公判ニュース 悪党通信	創刊号～34号	連赤問題を考える会	1990- 1998				
板東国男	日本における労働者階級の状態—日本階級構成論序説—(上)	◆1975.8.1	査証出版	1975				
月刊現代	1987年4月号	“加藤B生”「初めて明かす連合赤軍の血と掟」所収	講談社	1987				
序章	第8号 公開論争—革命戦争派再生のために—<連合赤軍事件>をどう総括するか	1972.5.20/雪野建作「戦闘集団性を止揚し、革命党形成へ」等所収	京都大学 出版会	1972				
序章	第9号 ★三戦士追悼特集—「ディア・ヤシン」作戦と世界革命	1972.9.30/坂口弘「手記(72年4月)」等所収	京都大学 出版会・序 章社	1972				
序章	第11号	1973.5/雪野建作「ファッション的15年求刑の暴挙を許すな!」等所収	京都大学 出版会・序 章社	1973				
序章	第14号	1974.4/坂口弘「赤軍派塩見氏への反論(1973.12)」等所収	京都大学 出版会・序 章社	1974				
状況	1973年7月号 特集:草莽・攘夷・千年王国	雪野建作「<遊撃戦争路線>の総括」所収	状況出版	1973				
流動	特集:赤軍 その軌跡 —連合赤軍から10年	◆1982.2/植垣康博「連合赤軍の革命戦争路線の極左性と同志「殺害」の推進力について(1981.11.30)」等所収	流動出版	1982				
UNI-ON	第2号	1980.12.31/植垣康博「全共闘運動の意義と限界」所収	ユニオン協 働組合	1980				
監獄通信	No71 特集:植垣康博 甲府刑務所体験記	1999.5.27/植垣康博「甲府刑務所体験記」所収	統一獄中 者組合	1999				
植垣康博	土地革命の現代的意義—古川哲氏の現代日本の土地所有と地代の問題	◆古川哲「現代日本の土地所有と地代の問題(「現代と思想」NO30・1977年12月号掲載)」について		1980				
植垣康博	連合赤軍の闘争経過表	★						
吉野雅邦	事実回想	★						
1-3	当事者【インタビュー・取材記事等】							
宮崎学	叛乱者グラフィティ	植垣康博インタビュー所収	朝日新聞 社	2002				
文藝春秋	2005年6月号 特集:証言1970-72	久能靖氏原稿内に植垣康博インタビュー所収	文藝春秋	2005				
別冊宝島編集部	実録 スキャンダルな唄の中	植垣康博インタビュー所収+勝木國男氏手記内に千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有/別冊宝島1487『実録刑務所マル秘通信』(2007)の改訂・改題・文庫化	宝島 SUGOI文 庫	2008				

ジーダイアリー	2010年3月号 通巻125号 八木澤高明 連載:「毛沢東」(マオロード)への旅	植垣康博インタビュー所収	バンコク週報社・クエストメディア	2010				
臼井敏男	叛逆の時を生きて	植垣康博・加藤倫教インタビュー所収	朝日新聞出版	2010				
田原総一朗	日本の戦後<下>定年を迎えた戦後民主主義	植垣康博取材記事所収	講談社	2005				
産経新聞取材班	総括せよ!さらば革命的世代	植垣康博取材記事所収	産経新聞出版	2009				
鹿砦社編集部	スキャンダル大戦争<1>特集:連合赤軍とその時代	青砥幹夫インタビュー所収	鹿砦社	2002				
荒岱介編	破天荒な人々 叛乱世代の証言	青砥幹夫インタビュー所収	彩流社	2005				
中日新聞	2008.11.08 朝刊	青砥幹夫インタビュー掲載	中日新聞	2008				
実話ナックルズ	2008年3月号 小野登志郎 連載:左翼という生き方	“大山幹司”インタビュー記事所収	ミオン出版	2008				
創	山本直樹 不定期連載:山本直樹の探りながらいつてみよう	不定期連載中/植垣康博・青砥幹夫・前沢虎義インタビュー等所収/2004.11/2004.12/2005.1/2005.2/2005.7/2005.12/2006.1/2006.5/2007.8/2009.4/2009.11	創出版	2004-				
2 裁判・救援関係等								
連合赤軍公判対策委員会	連合赤軍公判通信	創刊号1972.9/2号1972.12/3号1973.3		1972-1973				
連合赤軍公判対策委員会	会報	1~17号?+特別号		1972-1974				
「我々の手に」編集委員会	連合赤軍問題を我々の手に	再刊1号(通刊12号)~再刊9号(通刊20号)?+号外/通刊11号までは「会報」と同じ		1974-1975				
連合赤軍公判対策委員会世話人会	連赤公判ニュース	★1~17号?		1973-1975				
*	連合赤軍事件統一組一審判決書	★◆1982.6	東京地裁刑事第七部	1982				
*	連合赤軍事件統一組控訴審判決書	★1986.9	東京高裁第四刑事部	1986				
*	連合赤軍事件統一組上告審判決書	★1993.2	最高裁判所第三小法廷	1993				
*	被告人吉野雅邦、同加藤倫教に対する各殺人等被告事件判決(いわゆる連合赤軍分離組)	★◆1979.3	東京地裁刑事第七部	1979				
*	弁論要旨(永田洋子、坂口弘、植垣康博に対する各殺人死体遺棄等被告事件)	★◆	連合赤軍弁護団	1982				
*	連合赤軍統一公判上告審 上告補充書	★						
坂口弘	「共産主義化」の形成過程とその内容	◆						
坂口弘	最終意見陳述	◆1982.3/「月刊状況と主体」谷沢書房1982.10掲載		1982				
坂口弘	「訂正と補充」「共産主義化」の形成「遠山さんら三名の赤軍派メンバーに対する総括要求」「共産主義化」の内容「メンバーに『総括』を求めた理由」「赤軍派の歴史を総括」「極左の絶対論理」「12.18アピール」	◆						
坂口弘	「あびーる」「あびーる(2)」「あびーる(3)」	◆1982.5.11/1984.6.11						
坂口弘	控訴趣意書 昭和57年(う)第1330号	◆1983.10		1983				
坂口弘	控訴趣意書 昭和58年	◆1983.9	東京高裁第四刑事部	1983				
永田洋子	最終意見陳述 自己批判—連合赤軍の過ちを繰り返さぬために	◆「インパクション」17号~20号掲載/17号1982.4/18号1982.6/19号1982.8/20号1982.10	東京地裁	1982				

永田洋子	控訴趣意書 昭和57年第1330号(被告人 永田洋子 植垣康博)	◆	東京高裁第四刑事部	1983				
植垣康博	連合赤軍事件最終意見陳述書	◆		1982				
植垣康博	連合赤軍問題の総括に向けて 連合赤軍統一公判第一審最終意見陳述	◆	東京地裁第701号法廷第一審	1984				
植垣康博	連合赤軍統一公判控訴審を終えるにあたって	◆	東京高裁第四刑事部	1986				
永田さんを支える会	永田洋子のお元気?通信	★1~15号?						
坂口菊枝さんを支える会	しるし	★1~17号?						
坂口菊枝さんを支える会	しるし増刊号 控訴審供述調書	★1993.12		1993				
支援委・対策委活動者会議	救援通信	★						
救援縮刷版刊行委員会	救援縮刷版 1968.12→1977.8/創刊号→100号	◆	救援連絡センター	1977				
上田吾郎・他	救援についての座談会	◆1939~1940号	日本図書新聞	1972				
書簡集編集委員会編	書簡集1集	◆1973.11	長野救援センター・加藤君を守る会・愛知救援センター	1973				
もっぶる社	もっぶる通信	◆1~20号?	日本赤色救援会	1971-1973				
もっぶる社	3.31人民集会特集 もっぶる通信特別号	◆	日本赤色救援会	1972				
信濃太郎	連合赤軍事件回想記		長野救援センター	1993				
井上薫	裁判資料 死刑の理由	文庫版タイトル『死刑の理由』/坂口弘・永田洋子に対する一審・控訴審・上告審判決書を所収	作品社	1999	新潮文庫	2003		
3 機関誌等								
日本共産党(革命左派)神奈川県常任編集委員会編	人民独裁に向けて—日本共産党(革命左派)基本文献集	1972.11.20/「序章」臨時増刊号として刊行	序章社	1972				
日本共産党(革命左派)神奈川県常任編集委員会編	銃撃戦と"肅清"と「連合赤軍」の科学的総括のために	1973.9.15	序章社	1973				
共産主義者同盟赤軍派(革命戦争編集委員会編)	共産主義者同盟赤軍派政治理論機関誌総集	◆1973.10		1973				
共産主義者同盟赤軍派日本労働党建設準備委員会編	総括資料集	◆1973.10		1973				
査証編集委員会	査証	◆1~7号(解散号)、臨時増刊号(「銃よおまえは誰のために」松田久/1973.8.30)	査証出版	1971-1973				
●『増補「赤軍」ドキュメント』(査証編集委員会編・新泉社・1978版)に連合赤軍を含む赤軍派関連の1841点に及ぶ文献目録有。新版には収録されず								
4 警察・司法関係者等								
佐々淳行	連合赤軍「あさま山荘」事件 ※文庫版 連合赤軍「あさま山荘」事件 実戦「危機管理」	同事件の警備に参画した筆者による記録。自己顕示が目立ち、客観性に欠ける。	文藝春秋	1996	文春文庫	1999		
北原薫明	連合赤軍「あさま山荘」事件の真実—元県警幹部が明かす	長野県警警備二課長によるあさま山荘事件の記録。佐々淳行の著作に対抗して書かれた。	ほおずき書籍	1996	ほおずき文庫	2007		
白鳥忠良	あさま山荘事件—審判担当書記官の回想	加藤元久の少年審判担当書記官の回想。	国書刊行会	1988				
白鳥忠良	あさま山荘銃撃事件—同志リンチ殺人事件 審判担当書記官の回想	加藤元久の少年審判担当書記官の回想+『旭の友特集号』からの大量引用。	本工舎	1993				
警察文化協会	連合赤軍あさま山荘人質事件	「永田ら二人逮捕」から始まる当時の新聞紙上に現われた記事の再録。	*	1973				
長野県警察本部警務部教養課	連合赤軍 軽井沢事件 旭の友特集号	県警本部長から警察署の電話交換手まで、長野県警事件直後の手記などによる記録。	*	1972				

	横川博巳編	長野県犯罪実話集 捕物秘話 第8集	「連合赤軍事件」	防犯信州社	1972				
	公安資料調査会	過激派集団		公安資料調査会	1972				
5	関係者等								
	金廣志	自慢させてくれ!	在日の赤軍派兵士、72年から15年の潜行、そして浮上の自叙伝。	源草社	2001				
	金廣志	落ちたって、いいじゃん! 逆転発想にこそ難関中学合格のカギがある		角川書店	2009				
	塩見孝也+川島豪	いま語っておくべきこと	元共産同赤軍派議長と元日本共産党革命左派常任委員会議長の1990年11月の対談。	新泉社	1990				
	塩見孝也	赤軍派始末記 元議長が語る40年	京大入学から赤軍派の結成を経て、ハイジャック・獄中生活、連合赤軍総括などを時系列に沿って記述。終章に「よど号」グループと拉致疑惑についても書いている。	彩流社	2003	改訂版	2009		
	塩見孝也	監獄記	獄中の痛快エピソードを志向してエンタメたり得ている異色作だが、著者のたつての希望で、1章だけ森恒夫・永田洋子について触れる。森に貧乏くじをひかせたと悼む。	オークラ出版	2004				
	重信房子	わが愛わが革命		講談社	1974				
	重信房子	りんごの木の下であなたを生もうと決めた		幻冬舎	2001				
	重信房子	日本赤軍私史 パレスチナと共に		河出書房新社	2009				
	日本赤軍編著	日本赤軍 20年の軌跡		話の特集	1993				
	査証編集委員会編	新編「赤軍」ドキュメント(資料連合赤軍問題2)	共産同赤軍派の関係文書を編集した資料集。「赤軍」ドキュメント(1975)/増補(1978)/新編(1983)	新泉社	1986				
	高沢皓司	兵士たちの闘	当初、一志徹の名で雑誌に発表された共産同赤軍派一連合赤軍事件のドキュメント。	マルジュ社	1982				
	高沢皓司	行きいそぎの青春	「森恒夫 一九七三年一月東京」	講談社	1984				
	高沢皓司・高木正幸・蔵田計成	新左翼二十年史 叛乱の軌跡		新泉社	1981				
	蔵田計成	新左翼運動全史	◆	流動出版	1978				
	高沢皓司・蔵田計成	新左翼理論全史	◆	新泉社	1984				
	高木正幸	新左翼三十年史		土曜美術社	1990				
	荒岱介	ブントの連赤問題総括	20年後に塩見出獄で巻き起こった論争に対し、戦旗紙上に掲載された荒岱介など戦旗派の主張の他、塩見孝也、植垣康博の反論を所収。	実践社	1995	改訂増補版	2005		
	荒岱介	新左翼とは何だったのか		幻冬舎新書	2008				
	三上治	1970年代論		批評社	2004				
	小嵐九八郎	蜂起には至らず 新左翼死人列伝		講談社	2003	講談社文庫	2007		
	小坂修平	思想としての全共闘世代		ちくま新書	2006				
	中野正夫	ゲバルト時代 SINCE 1966-1973 あるへタレ過激派活動家の青春		バジリコ	2008				
	田中美津	いのちの女たちへ とり乱しウーマン・リブ論	パンドラ・現代書館分/2001(新装版)/2004(増補新装版)/2010(新装改訂版)	田畑書店	1972	河出文庫	1992	パンドラ・現代書館	
6	ジャーナリスト・学者等								
	大泉康雄	氷の城 連合赤軍事件・吉野雅邦ノート ※文庫版 「あさま山荘」籠城—無期懲役囚・吉野雅邦ノート	吉野雅邦の小学校以来の友人の著者が、吉野の手紙をもとに幼少時からの軌跡を記録。	新潮社	1998	祥伝社文庫	2002		
	大泉康雄	あさま山荘事件の深層	関係者の証言や手記をもとに『氷の城』に加筆。	小学館	2003				
	大泉康雄	あさま山荘銃撃戦の深層 上下	「あさま山荘事件の深層」にその後の資料、インタビューをもとに大幅に加筆して再構成した。本文計738ページ	講談社文庫	2012				
	久能靖	浅間山荘事件の真実	あさま山荘事件の日本テレビ実況中継の記録、直前の逃避行の経緯も詳述。	河出書房新社	2000	河出文庫	2002		
	椎野礼仁編	連合赤軍事件を読む年表	連合赤軍事件の前史から事件後の動向までの全過程を、当事者(含む報道・警察)の著作から抜粋して年表化。最後に植垣康博の解説に代えたインタビューを掲載。	彩流社	2002				

高橋 檀	語られざる連合赤軍—浅間山荘から30年	坂口弘の救援にかかわった筆者による事件の考察。	彩流社	2002				
パトリシア・スタインホフ	日本赤軍派—その社会学的物語 ※文庫版 死へのイデオロギー 日本赤軍派	日本の転向の研究から岡本公三への興味、そして赤軍派、連合赤軍等をアメリカの社会学的手法で分析。まだイスラエルの捕虜だった岡本公三へのインタビューも入っている。	河出書房 新社	1991	岩波現代 文庫	2003		
パトリシア・スタインホフ+伊東良徳	連合赤軍とオウム真理教—日本社会を語る	坂口弘の上告審、松本サリン事件被害者代理人を務めた弁護士とスタインホフ女史の対談。司会は「連赤の全体像を残す会」のメンバーで『語られざる連合赤軍』の著者高橋檀。 付録:連合赤軍統一組—審判期日表	彩流社	1996				
田原 総一郎	連合赤軍とオウム わが内なるアルカイダ		集英社	2004				
大塚 英志	「彼女たち」の連合赤軍—サブカルチャーと戦後民主主義	政治言葉で語られていない点で新鮮。森恒夫の「生理の時なんか〜」発言などを読むと、人は全能的リーダー足り得ないのだ……という思いにとらわれる。金子みちよ評価も。	文藝春秋	1996	角川文庫	2001		
吉本 隆明	いまはむしろ背後の鳥を撃て—連合赤軍事件をめぐって—	1972.8.5/『査証(5号)』にも同文掲載	ルビコン書 房	1972				
柄谷 行人	意味という病	「マクベス論—意味に憑かれた人間」	河出書房	1975	河出書房	1979	講談社文 芸文庫	1989
柄谷 行人・笠井 潔	ポスト・モダニズム批判/拠点から虚点へ <現在>との対話(1)	柄谷行人「連合赤軍事件について」	作品社	1985				
柄谷 行人	倫理21		平凡社	1999	平凡社ラ イブラー	2003		
笠井 潔	テロルの現象学 観念批判論序説		作品社	1984	ちくま学芸 文庫	1993		
上野 千鶴子	上野千鶴子が文学を社会学する	「連合赤軍とフェミニズム」	朝日新聞 社	2000	朝日文庫	2003		
小熊 英二	1968【下】叛乱の終焉とその遺産	「第16章 連合赤軍」本書全体は、1970年前後の学生・青年運動の実態をもっとも総括的に記述した労作である。	新曜社	2009				
坪内 祐三	一九七二「はじまりのおわり」と「おわりのはじまり」		文藝春秋 集英社新 書	2003	文春文庫	2006		
鈴木 英生	新左翼とロスジェネ		日本文芸 社	2003				
宮崎 学	突破者流「殺し」のカルテ 動機と時代背景から読み解く殺人者の心の暗部	「組織という結束が裏切り者排除に向かった末の殺人—連合赤軍あさま山荘事件、オウム地下鉄サリン事件」	新潮社	1999	新潮文庫	2002		
麻生 幾	戦慄—昭和・平成裏面史の光芒	文庫版タイトル『封印されていた文書(ドシエ)昭和・平成裏面史の光芒Part1』/単行本項名「あさま山荘攻防戦の亡霊たち」・文庫版項名「あさま山荘銃撃攻防」未公開資料の全貌	新潮社	1999	新潮文庫	2002		
保阪 正康	戦後の肖像 その栄光と挫折	「悲しきテロリスト 坂口弘」	TBSワ ニカ/阪急 コミュニ ケーション ズ	1995	中公文庫	2005		
大塚 公子	57人の死刑囚	坂口弘・永田洋子の項有/藤井政安の項に坂口弘についての言及有	角川書店	1995	角川文庫	1998		
若一 光司	我、自殺者の名において	文庫版タイトル『自殺者 現代日本の118人』/「革命の利益から考えて、その罪は死刑である…連合赤軍中央委員長・森恒夫」	徳間書店	1990	幻冬舎ア ウトロー文 庫	1998		
田中 清松	戦中生まれの叛乱譜 山口二矢から森恒夫		彩流社	1985				
金原 龍一	31年ぶりにムシヨを出た 私と過ごした1000人の殺人者たち	千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有	宝島社	2009				
別冊宝島編集部	左翼はどこへ行ったのか	安彦良和のインタビュー内に植垣康博・青砥幹夫についての言及有/別冊宝島『左翼はどこへ行ったのか!』(2008)の改訂・改題・文庫化	宝島 SUGOI文 庫	2009				
中川 友吉	過激派学生 何が彼らをそうさせたか	森恒夫・行方正時・遠山美枝子の項有	講談社	1973				
滝川 洋	過激派壊滅作戦 公安記者日記	1971.6~1972.5の公安担当記者の日記	三一書房	1973				
樋口 幸一	犯罪の心理	「集団暴力と連合赤軍」	大日本図 書	1972				
福島 章	甘えと反抗の心理	「総括の論理—連合赤軍リーダーの残したもの—」/日本経済新聞社1976年発行の同書には左記論文は未収	講談社学 術文庫	1988				
中谷 蓮子編	女性犯罪	「第2章 各論 第5節 政治と女性犯罪」	立花書房	1987				

山平重樹	アサヒ芸能連載:連合赤軍物語 紅炎 38年目の「新証言」	暴力団の実録本を書いてきた著者による、ノンフィクション。関係者に精力的に取材し、既刊資料の幅広い渉猟の成果とあわせ、これまでの著作の中ではもっとも詳細な記録となっている。	徳間書店	2009-				
山平重樹	タイトル 連合赤軍物語紅炎(プロミネンス)	上記アサヒ芸能連載の単行本。巻末に参考文献54点。	徳間文庫	2011				
鈴木邦男	言論の覚悟 連合赤軍40年							
朝山実	アフター・ザ・レッド 連合赤軍兵士たちの40年	前澤虎義、加藤倫教、植垣康博、雪野建作の聞き書き。	角川書店	2012				
7 ムック誌・雑誌特集等								
読売新聞社会部	連合赤軍—この人間喪失	事件を取材した読売新聞記者による記録。当事者周辺の人々へからの聞き取りが豊富。	潮出版社	1972				
週刊現代	増刊 緊急特集号 連合赤軍事件	1972.3.21号	講談社	1972				
週刊読売	臨時増刊 総特集:連合赤軍事件	1972.4.5号	読売新聞社	1972				
週刊サンケイ	臨時増刊 連合赤軍全調査	1972.3.27号	産経新聞出版局	1972				
情況	1972年4月号 緊急特集:〈政治〉のなかの死		情況出版	1972				
インパクション	18号 特集:連合赤軍問題	◆1982.6	イザラ書房・インパクト出版会	1982				
1億人の昭和史	8 日本株式会社の功罪 昭和40~47年 特集:大学紛争・連合赤軍		毎日新聞社	1976				
毎日ムック	シリーズ20世紀の記憶 連合赤軍 “狼”たちの時代 1969-1975	文化、事件、芸能などに詳しくあつたために収録された当時の写真が貴重。事柄もよく、丸ごとあの時代を表現し得ている。植垣康博がガリガリに痩せている姿	毎日新聞社	1999				
週刊 YEAR BOOK	日録20世紀 1972 連合赤軍「浅間山荘」事件		講談社	1997				
朝日クロニクル	週刊20世紀 1972 30号 総力特集:決断と実行		朝日新聞出版	1999				
マルコポーロ	1993年7月号 連合赤軍なんて、知らないよ。		文藝春秋	1993				
月光	復活第14号 特集:連合赤軍秘史	2000.3.25号/「連合赤軍秘史」南原四郎	南原企画	2000				
文藝	2000年秋号 緊急特集:赤軍 RED ARMY		河出書房新社	2000				
文藝別冊	KAWADE夢ムック 文藝別冊 総特集:赤軍 RED ARMY 1969-2001	主には重信房子や赤軍派関連の手記等だが、中山千夏や松田政男のインタビュー、平岡正明の論考、足立正生夫人オマイヤさん、大谷恭子弁護士の文章など多彩で興味深い。「文藝 2000年秋号 緊急特集 赤軍 RED ARMY」のムック本化	河出書房新社	2001				
8 散文・対談等								
大江健三郎	壊れものとしての人間 活字のむこうの暗闇	「自註と付録—核時代の『悪霊』、または連合赤軍事件とドストエフスキー経験」	講談社文庫	1972				
寺山修司	死者の書	「森恒夫論」/クインテッセンス出版『寺山修司著作集4』(2009)にも所収	土曜美術社	1974	新装版	1993	河出文庫	1994
寺山修司	新文芸読本 寺山修司	「『連合赤軍』をこう思う」深沢七郎との対談	河出書房新社	1993				
平岡正明	戦後事件ファイル—赤塚不二夫、安保、三島由紀夫、赤軍、ひばりの死、他	「連合赤軍 同志殺し・浅間山荘銃撃戦 赤色犯科帖1 革命は魔道である」	マガジンファイブ	2006				
別役実	別役実の犯罪症候群	「連合赤軍の神話」	三省堂	1981	ちくま学芸文庫	1992		
大岡昇平・埴谷雄高	二つの同時代史	15~16章あたりで一部言及/「世界」1982年月1月号~1983年12月号連載	岩波書店	1984				
佐藤優	国家の畏 外務省のラスプーチンと呼ばれて	東京拘留所での坂口弘についての言及有	新潮社	2005	新潮文庫	2007		
高橋源一郎	文学なんかこわくない	「文学の向う側2 暗闇の中で」/1968年の森恒夫との会話	朝日新聞社	1998	朝日文庫	2001		
見沢知廉	囚人狂時代	千葉刑務所での吉野雅邦についての言及有	ザマサダ	1996	新潮文庫	1998		
小池真理子	悪女と呼ばれた女たち—阿部定から永田洋子・伊藤素子まで	文庫版タイトル「悪女と呼ばれた女たち」(副題削除)	主婦と生活社	1982	集英社文庫	1986		
中村うさぎ	壊れたおねえさんは、好きですか?	「連合赤軍とエロスについて考える」	フィールドワイ	2003	文春文庫	2007		

中村うさぎ	穴があったら落ちたい!	「連合赤軍事件と私」	角川文庫	2003				
中村うさぎ	うさぎが鬼に会いに行く	「植垣康博 連合赤軍を訪ねて」	アスキー	2007				
川本三郎	マイ・バック・ページ	永井荷風や林芙美子を世界とする川本にこれだけの左翼世界があったとは。赤衛軍事件に関連して朝日を誡首された著者、たった1冊の告白本。2011年に映画化して公開だが…。	河出書房新社	1988	河出文庫	1993		
文学界	2008年10月号	「なぜ「連合赤軍」の時代か」桐野夏生・山本直樹対談	文藝春秋	2008				
表現者	2008年5月号 18号 特集:物語としての「革命」	「連合赤軍事件と現在」笠井潔・西部邁・富岡幸一郎鼎談／「廃屋と化する『板東』旅館」佐伯啓思	イブシロン出版	2008				
9 フィクション								
鮎川信夫	続・鮎川信夫詩集	戦後詩の巨人鮎川信夫が、何故か一篇の詩を書いている。「My United Red Army」	思潮社	1994				
相澤啓三	詩集 沈黙の音楽	「書かれなかった鎮魂歌」	深夜叢書社	1990				
円地文子	食卓のない家	獄中の連合赤軍兵士(吉野がモデル)の父で、大企業のエリート社員が主人公。主人公と妹の仲を疑って自殺した妻と、キャリア官僚のエリートである妹。この妹が、主人公の心の支えとなる。	新潮社	1979	新潮文庫	1982	読売新聞社	1997
大江健三郎	洪水はわが魂に及び	「政治」の問題に係わりつつも、著者の後期のテーマである「魂の問題」に移行する時期の長編小説。野間文芸賞受賞。この小説の執筆中に連合赤軍事件が起きる。知恵遅れの幼児ジンとともに核避難所跡に籠った狂人勇魚と、「自由航海団」を名乗る若者たちとの交流の物語。	新潮社	1973	新潮文庫上下	1983	新潮社	1996
大江健三郎	河馬に噛まれる		文藝春秋	1985	文春文庫	1989	講談社文庫	2006
桐山襄	パルチザン伝説		作品社	1984	第三書館	1984		
桐山襄	風のクロニクル—戯曲		冬芽社	1985				
桐山襄	風のクロニクル		河出書房新社	1985				
桐山襄	スターバト・マーテル	事件を象徴する五編の小話。かつて中核派の活動家だった著者による鎮魂の書。	河出書房新社	1986	河出文庫	1991		
桐山襄	都市叙景断章	失われた記憶の中、姉=彼女に関わる断片、68年10月の新宿、69年9月の日比谷公園、雪の山岳ベース、そして…。	河出書房新社	1989				
埴谷雄高	死霊	「5章 夢魔の世界」	講談社	1976				
夢野京太郎	世界赤軍 夢野京太郎小説集	「連合赤軍リンチ事件」／「夢野京太郎」は竹中労のペンネーム	潮出版社	1973				
小堺昭三	小説・連合赤軍		徳間書店	1973	コCODE出版	2009		
高木彬光	神曲地獄篇	著者の下劣な品性が露呈した醜悪な著作。	角川文庫	1978				
角間隆	赤い雪 総括・連合赤軍事件	角間によるノンフィクション、醜悪そのもの。作者の品性が疑われる。	読売新聞社	1980	新風舎文庫	2004		
三田誠広	漂流記1972	三田誠広が連合赤軍事件を扱ってみたら、角間隆を軽くしてみたようなものだった。	河出書房新社	1984	河出文庫上下	1989		
立松和平	光の雨		新潮社	1998	新潮文庫	2001		
高橋源一郎	さようなら、ギャングたち	群像新人長編小説賞優秀作で、著者の実質的デビュー作。巻末に(一九六〇年代 上手く言い表わせない言葉がない。だから小説を書くようになった。)とある。著者自ら「60年代3部作」と称し、この後「虹の彼方に『ジョン・レノン対火星人』と続く。「わたし」の恋人である「中島みゆきソング・ブック」は「わたし」に「さようなら、ギャングたち」と名前をつける。	講談社	1982	講談社文庫	1985	講談社文芸文庫	1997
高橋源一郎	ジョン・レノン対火星人	第1作として群像新人文学賞に応募し落選した『すばらしい日本の戦争』を書きかえ発表した、幻のデビュー作。「わたし」の家にやってきた、「花キャベツカントリー殺人事件」を起こした「花キャベツカントリー」のリーダーである「すばらしい日本の戦争」は「頭の中に死骸が住みつ」いており、「わたし」は何とかして彼の頭から死骸を追い出すべくさまざまな手段を試みる。「すばらしい日本の戦争」は作品の最後では火葬場に入っている。自殺したと思われる。	角川書店	1985	新潮文庫	1988	講談社文芸文庫	2004
矢作俊彦	スズキさんの休息と遍歴 またはかくも誇らかなるドーシーボーの騎行	左という言葉が好きで車好きでも前進とは決して言わないスズキさんは、シトロウエンの2CVを駆って友達(昔は同志と呼んでいた)に会いに行く。著者独壇場の時代相の記述。	新潮社	1990	新潮文庫	1994		
小池真理子	恋	連合赤軍浅間山荘事件を背景に、軽井沢で展開される倒錯した恋と官能、その結末は…。	早川書房	1995	ハヤカワ文庫	1999	新潮文庫	2002
小池真理子	望みは何と訊かれたら		新潮社	2007	新潮文庫	2010		

笠井潔	バイバイ・エンジェル		角川書店	1979	創元推理文庫	1995		
西村寿行	鬼女哀し		徳間書店	1980	徳間書店	1982	徳間文庫	1983
ジェラルド・D・ヴァリエ	SAS/日本連合赤軍の挑戦		創元推理文庫	1979				
ジョセフ・ローゼンバガー	デス・マーチャント/悪夢の日本連合赤軍		創元推理文庫	1982				
山崎哲	戯曲 砂の女—連合赤軍ノート—		深夜叢書社	1982				
折原一	沈黙の教室		早川書房	1994	ハヤカワ文庫	1997	双葉文庫	2009
深田祐介	暗闇商人		文春文庫	1995				
大塚英司	多重人格サイコ 雨宮一彦の帰還		講談社	2000	角川文庫	2003		
10 映画								
若松孝二	実録・連合赤軍 あさま山荘への道程	あさま山荘にいた連合赤軍の軌跡を、おもに赤軍側の視点から描く。背景となった60年代の学生運動から説き起し、幅広い世代にわたって関心を引き起こした。	若松プロダクション	2007				
高橋伴明	光の雨	急激に山荘に閉じこめられた老婦の独白が、若い男女に事件を説明する。この想定外に書かれた。「総括」の過程を息苦しいまで克明に描いており、一部に鋭い洞察もみられる。	シネカノン	2001				
原田真人	突入せよ!「あさま山荘」事件		東映	2002				
熊切和嘉	鬼畜大宴会		自主制作	1997				
小林正樹	食卓のない家	円地文子『食卓のない家』の映画化	MARUGENビル/松竹富士	1985				
11 テレビ・ビデオ								
*	松本清張 事件にせまる 連合赤軍の崩壊	1984.9.20放送/YouTubeにアップあり	テレビ朝日	1984				
*	驚きもの木20世紀 銃撃と肅清の神話・連合赤軍 あさま山荘事件の真相	1994.9.3放送	テレビ朝日	1994				
*	知ってるつもり 連合赤軍事件・永田洋子	植垣康博VTR出演	日本テレビ	2000				
*	田原総一郎の戦後史を辿る旅 全共闘運動とは何だったのか	2002.7.28放送/植垣康博VTR出演	テレビ朝日	2002				
*	若者たちの夏・全共闘時代	2003.1放送?/植垣康博VTR出演?/上と同じ?		2003				
*	朝まで生テレビ 激論!オウム・連合赤軍は終わらない!?	2004.3放送/植垣康博出演	テレビ朝日	2004				
*	プロジェクトX あさま山荘 衝撃の鉄球作戦	VHSビデオ・DVD/86分	NHKソフトウェア	2002				
*	あさま山荘事件 連合赤軍ドキュメント	VHSビデオ/72分/佐々淳行解説	文春ノンフィクションビデオ/NHKソフトウェア	1998				
*	田原総一郎の遺言—永田洋子と連合赤軍— 永田洋子その愛その革命	DVD/119分 テレビ東京 出演:田原総一郎/水道橋博士(浅草キッド)/山本直樹/植垣康博	ポニーキャニオン	2012				
*	田原総一郎の遺言—一線を越えたジャーナリスト達— 総括!知る権利—連合赤軍から機密漏えい事件まで	DVD/153分 テレビ東京 出演:田原総一郎/水道橋博士(浅草キッド)/須藤清華/長谷川幸洋/江川紹子/上杉隆	ポニーキャニオン	2012				
12 漫画								
樹村みのり	ポケットの中の季節	「贈り物」内の一節「もう一人は72年の年の2月の暗い山で道にまよった」	小学館	1974	小学館	1990		
大塚英志・藤原カムイ	アンラッキーヤングメン	全2巻	角川書店	2007				
バンブーコミックス	流血の革命 あさま山荘連合赤軍事件		竹書房	2009				
山本直樹	ピラーバーズ		小学館	2000				
山本直樹	レッド Red 1969~1972	連合赤軍事件を、植垣と永田の著作をもとに描いた漫画。史実を正確に描く。「イブニング」に隔号連載中で、単行本が6巻まで発行されている。	講談社	2007-				
13 音楽								
友部正人	乾杯!	セカンドアルバム「にんじん」(1973)に収録		1972				